

ローカルヒーロー作品における 女性登場人物の話しことば

高橋 美奈子

1. はじめに

本誌前号の高橋 (2010)⁽¹⁾では沖縄県内で人気を博している戦隊ヒーロー番組「琉神マブヤー」全13話を文字化資料とし、ローカルヒーローの話しことばを分析した。その結果、このような郷土愛や地域アイディティティーの形成を意図しているローカルヒーロー作品においても、悪役がヒーローよりも方言を多用しており、方言が標準語に比べ、好ましくないものを指標していること、さらに登場人物の性別によって使用が限定される言語形式があり、標準語による性規範拡散の可能性があることを明らかにした。しかし、性規範について、因 (2007) はフィクション作品におけるジェンダー指標形式の使用は必ずしも伝統的なステレオタイプを再生産するだけではなく、ステレオタイプそのものを変容させる潜在能力を持ち合わせていると指摘している。つまり、どのような役割の女性が何を指標しようと意図しているのかによって、ジェンダー指標形式の意味も異なるという。実際に、因 (2007) が分析したフィクション作品において、少年・少女読者を対象にした作品、男性向けの作品、女性向けの作品では、女性ジェンダー標示形式が指標するのは必ずしも同じではなかった。そこで、本稿では女性登場人物が少なかった「琉神マブヤー」以降、新たな女性キャラクターが次々と登場しているマブヤーシリーズ作品に現れる女性登場人物の発話に焦点を当て、方言社会におけるジェンダー指標形式が意味するものについて考察する。

「琉神マブヤー」は、「魂」を意味する「マブイ」からネーミングされた沖縄生まれのキャラクターである。第1作目の「琉神マブヤー」は2008年10月から琉球放送で放送されたが、その後も、マブヤーの人気は衰えず、「琉神マブヤー」の外伝として、「琉神マブヤー外伝 so!ウチナー」(以下、「外伝」と略す)が同じく琉球放送で2009年10月から全13話(各回30分)放送さ

れ、さらに、「琉神マブヤー 2 (ターチ)」(以下、「マブヤー 2」と略す)が2010年10月から同じく全13話(各回15分)放送された。その後も県内外で幾度となく再放送され、DVDも発売されたが、その人気はとどまるところを知らず、2011年10月にはシリーズ4作目の「琉神マブヤー 3 (ミーチ)」が放送開始され、今冬には全国区で活躍する沖縄県出身俳優をキャストとした映画「琉神マブヤー THE MOVIE 七つのマブイ」も全国公開される予定である。

これらのマブヤーシリーズは、ヒーローである琉神マブヤーと悪の軍団マジムン⁽²⁾との沖縄の平和をかけた戦いを主なストーリーとしているが、作品によって登場人物やマブヤーの位置づけが異なるので、本論に入る前に、これまで放送されたマブヤー作品のあらすじと主な登場人物を紹介する。ただし、第1作目の「琉神マブヤー」については高橋(2010)を参照されたい。

シリーズ2作目の「外伝」は、「琉神マブヤー」とはストーリーが異なり、沖縄県の昔話を中心に物語が展開されている。主人公である二人の男女ユンタとゆいが、沖縄の平和を守る神が住むといわれるチルダイ森で暮らす老人じんぶんぺーちゃんから沖縄の昔話を習っていると、突然、マジムンが復活した影響で沖縄に伝わる昔話の心である「マブイバナ」が消えかかってしまう。そこで、マブイバナを体内に収める能力を持つユンタと、マブイグミ⁽³⁾の能力を持つゆいが沖縄の心を守るために、マブヤーとガナシー⁽⁴⁾の助けを借りながら、マジムンに立ち向かうという物語である。「琉神マブヤー」では、マブヤーは^{かない}叶 という青年の変身した姿として描かれていたが、「外伝」では、マブヤーとガナシーは変身することなく、ゆいとユンタが助けを求めると、突如、空からやってくる宇宙人的な存在として登場する。よって、「外伝」にはマブヤーの変身前の姿である叶や叶が恋心を寄せるクレア、叶とクレアを見守る商店店主のオバアといった「琉神マブヤー」の主要人物は登場しない。また、悪役のマジムン軍団は、「琉神マブヤー」ではハブデービルが軍団の首領として活躍していたが、「外伝」では、マジムン軍団の王としてマジムンキング、その戦闘員のボスとしてハブクラゲンが新たに登場し、ハブデービルは第3話でマブヤーとの戦いに敗れ去り消えてしまう。他の戦闘員は「琉神マブヤー」同様で、マジムン軍団の紅一点であるマンガーチュ、

オニヒトデービル、クーバー1号、2号であるが、マジムン軍団の新たな刺客として、じんぶんペーちんのふりをした、フリムン⁽⁵⁾ ペーちゃんという美しい容姿の西洋系女性も登場する。

続く、3作目の「マブヤー2」は「琉神マブヤー」の続編であり、「琉神マブヤー」でヒジュルーゾーン⁽⁶⁾（冷酷空間）へ飛ばされた兄ニライを探す弟カナイ⁽⁷⁾が、外伝でも登場したハブクラゲンと新たな敵ヒメハブデービルと戦う物語である。ヒメハブデービルは、ハブをモチーフとした姿であるが、冷やかな心を持つ、マジムン一の策略家として描かれている女性である。正義の味方側には、神様と話ができる特別な力を持った神人^{かみんちゆ}のナミが新たに登場する。ナミは、「マブヤー2」の第11話以降、マブヤー、ガナシーに続く、ニライカナイの3人目の戦士、鳳神カナミーとしても活躍する。

本稿では、現在までにテレビで放送された「琉神マブヤー」、「外伝」、「マブヤー2」の3作品を調査対象とする。

2. 調査概要

調査対象である3作品のうち、「琉神マブヤー」と「マブヤー2」については、テレビで放送された内容をDVD化した『琉神マブヤー』と『琉神マブヤー2（ターチ）』（それぞれ全13話収録）を文字化し、データとして使用する。「外伝」は、現時点ではDVDが発売されていないことから、1話から最終話（13話）までのテレビ放送の録画をもとに文字化資料を作成する。文字化に際しては、自然談話の定量的調査に適するように考案された宇佐美（2007）による「文字化の原則」に従い、一発話の区切れは原則的に発話者が交代する箇所、あるいは間がある箇所とする。ただし、個人の特定が難しい複数同時発話文や笑い声・うめき声などの周辺言語的要素は文字化の対象外とする。本調査では、このように文字化した資料をエクセルに入力し、男女差が顕著であるジェンダー指標形式について分析する。なお、高橋（2010）では、自称詞、終助詞などの言語形式だけでなく、推量、命令、禁止などの発話行動表現にまで分析が及んだが、本稿では紙幅の都合により、どのような談話内容においても出現する自称詞と対称詞、終助詞に限定して論じることとする。

3. 調査結果

3.1 発話文数と登場人物数

上述した方法で得られた3作品の全発話文数と登場人物数は、以下の表1の通りである。

表1 3作品の全発話文数と登場人物数

		女の登場人物	男の登場人物	性別 不詳人物	総数
琉神マブヤー	発話文数	279文 (15.4%)	1526文 (84.5%)	1文	1806文
	登場人物数	10人 (22.2%)	34人 (75.6%)	1人	45人
外伝	発話文数	1127文 (27.4%)	2993文 (72.6%)	0文	4120文
	登場人物数	10人 (31.3%)	22人 (68.8%)	0人	32人
マブヤー2	発話文数	559文 (34.9%)	1043文 (65.1%)	0文	1602文
	登場人物数	15人 (40.5%)	22人 (59.5%)	0人	37人
3作品計	発話文数	1965文 (26.1%)	5562文 (73.9%)	1文	7527文
	登場人物数	35人 (30.7%)	78人 (68.4%)	1人	114人

表1を見ると、「琉神マブヤー」では登場人物数も発話文数も男性が8割近くを占めている。しかし、シリーズが続くにつれて、女性の登場人物数も発話文数も増加する。女性の主な登場人物は、1作目の「琉神マブヤー」では脇役として、味方側と悪役側のヒロインがそれぞれ一人ずつ（クレアとマングーチュ）と商店店主の高齢女性（オバア）の計三名だけであった。しかし、「外伝」では主役がユンタとゆいという男性と女性の二人になり、「マブヤー2」では、マブヤーと並ぶ女性戦士としてカナミーが現れ、悪役の主なヒロインも、マングーチュとヒメハブデービルの二人になる。本稿では、このように女性登場人物の役柄が多様になった作品において、ジェンダー指標形式がどの役柄にどのように出現し用いられるのかを分析する。

ただし、発話文数と登場人物数が増えたとは言え、発話文数の男女比と登場人物数の男女比を比較すると、いずれの作品も女性は登場人物数より発話文数による割合が低い。つまり、女性は登場人物の数の割には、男性ほど発

話をしていない。男の子向けの作品ということもあるだろうが、シリーズを通して、女性は男性よりも発話を控えるべきだという伝統的なジェンダー規範を示す可能性も示唆している。

なお、表を見ると、「外伝」の発話文数が他の2作品に比べて多いが、これは「琉神マブヤー」と「マブヤー2」が一話15分であるところ、「外伝」だけが一話30分の作品であることによる。

3.2 自称詞

自称詞について、3作品における全女性登場人物が用いた自称詞は以下の表2の通りである。女性登場人物が用いた自称詞は、大きく「わたし系」、「あたし系」、「それ以外」と三つに分けられる。

表2 女性登場人物による自称詞〔()内の数字は出現度数〕

		わたし系	あたし系	それ以外
クレア (225発話)	琉神マブヤー (140発話)	わたし (3)		
	マブヤー2 (85発話)	わたし (6)		
オバア (198発話)	琉神マブヤー (80発話)		あたし (1)	オバア (3)
	マブヤー2 (118発話)			オバア (1)
マングーチュ (249発話)	琉神マブヤー (17発話)	わたし (2)		
	外伝 (190発話)	わたし (12)、 わたしたち (1)、 わたくし (2)	あたし (3)	
	マブヤー2 (42発話)	わたし (5)、 わたしたち (1)		
ゆい (774発話)	外伝	わたし (22)、 わたしたち (3)	あたし (8)、 わたしたち (1)	ゆい (7)
フリンペーち ん (67発話)	外伝	わたし (1)		ミー (2)
ウーマクー (43発話)	外伝	わたし (2)、 わたしたち (3)	あたし (1)	
なみえ (12発話)	外伝	わたし (3)	あたし (1)	
かまど (12発話)	外伝	わたし (1)		
幽霊 (3発話)	外伝	わたし (1)		
ナミ (134発話)	マブヤー2	わたし (17)、 わたしたち (3)		
ヒメハブデービ ル (88発話)	マブヤー2	わたし (3)	あたし (1)	
カナミ (19発話)	マブヤー2	わたし (1)		

高橋（2010）では、男性登場人物のみが使用していた自称詞「おれ」、「ぼく」、方言形自称詞「ワン」、「ワー」を男性的指標形式と結論づけたが、表2を見ると、「琉神マブヤー」に続く2作でもやはり全ての女性登場人物にこれらの自称詞の使用は見られない。しかし、全ての女性登場人物が同じ自称詞を用いているわけではなく、高齢であるオバアとそれ以外の若い女性登場人物の間で使用する自称詞の語形に違いが見られる。まず、オバアを除き、自称詞の使用が見られた全女性登場人物は「わたし」を使用している〔例：「わたしは食いしん坊でいいの」（ゆい）、「わたしの魅力で誘惑すればマブヤーはメロメロ」（マングーチュ）、「わたしは今、あなたの心に話しかけているの」（ナミ）〕。また、「あたし系」自称詞についても、「琉神マブヤー」では標準語しか話せなくなった状況においてオバアが「あたくし」を一度使用しただけであったが〔例：「ええ、あたくし、元気ですよ」〕、「外伝」と「マブヤー2」では、発話数の多い若い女性は「あたし」を用いている〔例：「だから、ユンタ、あたしのこと信じて」（ゆい）、「今の勝負、あたしは認めないからね」（マングーチュ）〕。ただし、「わたし」や「あたし」が特定の属性や性質を指標しているわけではなく、使用例を見ると、若い女性による自称詞のヴァリエーションの一つにすぎない。

「わたし」より丁寧度の高い「わたくし」の使用は、「外伝」のマングーチュにのみ2例見られた〔例：「次はわたくしにおまかせください」、「ええ、わたくしマブヤーの弱点を見つけ出しましたわ」〕。いずれの発話も、育ての親でありマジムン軍団の王であるマジムンキングに対して使われたもので、文末表現も丁寧体である。「琉神マブヤー」と「マブヤー2」では、マジムン軍団のボスの人物は登場するが、扱われ方はボスとは言い難く、王も登場しないので、「わたくし」の使用が見られなかったのだろう。つまり、「わたくし」の使用は、目上に対する丁寧さを表すという一般的な機能の表出で用いられている。

「自分の名前」を自称詞として使用しているのは、「外伝」のゆいだけである〔例：「ゆい、弱い者いじめ大っきらいだわけさー。絶対ゆるさんよー」〕。ゆいは、ユンタと同様に幼い印象を与える人物として描かれている⁽⁸⁾。高橋

(2001、2009) で、実際の沖縄県の女子中高生と大学生が最も使用すると答えた自称詞の語形が「自分の名前」であり、「あたし」の使用がほとんど見られなかったことからすれば、現代風の沖縄女性として描かれているクレアやナミにも「あたし」よりも「自分の名前」の自称詞使用が見られてよさそうである。しかし、本シリーズでは幼稚な言動をするゆいだけが「自分の名前」を自称していることから、本作品は現実的な沖縄県内の言語行動を反映しているのではなく、成人女性の使用する自称詞は、標準語による女性的指標形式が好ましいということを意図していると言える。

表2の自称詞の中で最もステレオタイプの使用が顕著なのが、フリムンペーちゃんである。前述したように、フリムンペーちゃんは、日本語が片言の西洋系女性であり、自称詞も外国人の役割語として典型的な「ミー」を用いている〔例：「ボーイズアンドガールズ、最後までマジムンバナを聞いてくれたお礼にミーから素敵なプレゼントねー」〕。

つまり、自称詞の使い分けは、悪役と正義役という役柄の「好ましさ」による違いは表出しておらず、高齢であるか幼いかの年齢による違いと国籍（あるいは人種）による違いのみを示す形式として使われている。

3.3 対称詞

次の表3には、女性登場人物が用いた全ての対称詞語形とその相手を示す。

表3 女性登場人物による対称詞〔()内の数字は出現度数〕

		語形	相手
クレア (225発話)	琉神マブヤー (140発話)	名前の呼び捨て あんた あんたたち あなた きみ 親族呼称 ちゃん付け 軟弱青年	叶 (12)、ケン (1) 叶 (2) マジムン軍団 (1) あいちゃん (1) 叶 (1) 岩次郎 (2) メタボ (1) 叶 (1)
	マブヤー2 (85発話)	名前の呼び捨て ヤッター* 方言形親族呼称 ババア	カナイ (5) オバアとオバアの彼氏 (1) オバア (7) オバア (1)

オバア (198発話)	琉神マブヤー (80発話)	名前の呼び捨て おまえ あんた あんたたち ちゃん付け ヨーガラー* ニーシェーター*	叶 (4) 叶 (1)、彼氏 (3) 叶 (3)、ハブデービル (1)、 デモ隊 (1) マジムン軍団 (2) あいちゃん (1) 叶 (2) デモ隊 (1)
	マブヤー 2 (118発話)	名前の呼び捨て あんた さん付け ガリー* たーぼう	カナイ (3)、クレア (1)、 アルベルト (1) 客の男 (4) ナミ (2) クレア (1) ディアマンテスのメンバー (1)
マンガーチ ユ (249発話)	琉神マブヤー (17発話)	名前の呼び捨て	ハブデービル (1)
	外伝(190発話)	名前の呼び捨て おまえ おまえたち おまえら あんた あんたたち 様付け ヤナカーギー* イバヤー* こいつ	マブヤー (2)、ハブデービル (3)、 ハブクラージェン (2)、オニヒトデー ビル (3)、クーバー1号2号 (1) オニヒトデービル(3)、マブヤー(1)、 ペーちゃん (1) クーバー (2) ゆいとユンタ (1)、 ウーマクーター (1) ユンタ (2)、ハブデービル (2)、 ゆい (5) ゆいとユンタ (3) マジムンキング (15) ゆい (1) ハブクラージェン (1) ユンタ (1)
	マブヤー 2 (42発話)	名前の呼び捨て あんた あなた	マブヤー (2)、ハブクラージェン (1) マブヤー (2)、ハブクラージェン (1) ナミ (2)
ゆい (774発話)	外伝	名前の呼び捨て おまえ あんた あんたたち あなた あなたたち ちゃん付け	ユンタ (73)、マブヤー (29)、ペー ちゃん (23)、ガナシー (6)、マンガ ーチュ (5)、ハブデービル (4) ⁽⁹⁾ ユンタ (2) ユンタ (5)、ハブクラージェン (2)、 マンガーチュ (1)、フリムンペー ちゃん (2) ウーマクーター (2) マンガーチュ (1) マジムン軍団 (3) ペーちゃん (2)
フリムンペ ーちゃん (67発話)	外伝	ユー ヤー* そこのボーイ	ウーマクーター (1) マブヤー (2) ユンタ (1)

ウーマクー (43発話)	外伝	あんた あんたたち リーダー	ユンタ (1)、メンバー (1) マジムン軍団 (2) ハブクラゲン (1)
かまど (12発話)	外伝	名前の呼び捨て シーサー*	ペーちん (3) ペーちん (1)
織子 (4発話)	外伝	名前の呼び捨て 親族呼称	なみえ (1) ペーちん (2)
ナミ (134発話)	マブヤー 2	名前の呼び捨て あんた あなた あなたたち きみ くん付け 方言形親族呼称	カナイ (5) ⁽¹⁰⁾ 、マブヤー (10)、ガ ナシー (4) カナイ (1) カナイ (1)、マブヤー (1) マブヤーとガナシー (1) カナイ (2)、ニライ (3) カナイ (1) オバア (1)
ヒメハブデ ービル (88発話)	マブヤー 2	名前の呼び捨て おまえ あんた あんたたち 様付け 人間の女 カミンチュの女 泥棒猫	マブヤー (1)、ハブクラゲン (2)、 マングーチュ (2) ナミ (1) ナミ (1)、ハブクラゲン (1)、マ ングーチュ (1) マジムン軍団 (1) ハブクラゲン (9) ナミ (1) ナミ (1) カナミー (1)
カナミー (19発話)	マブヤー 2	名前の呼び捨て あなた	マブヤー (2)、ガナシー (2)、ヒメ ハブデービル (1) ヒメハブデービル (1)
美容師のち あき (15発話)	マブヤー 2	あんた ちゃん付け	客の女 (1) 客の女 (1)
美容師 (女) (9発話)	マブヤー 2	ヤー* さん付け	客の女 (1) 美容師のちあき (1)

*「ヤー」「ヤッター」は方言形対称代名詞「おまえ」「おまえたち」、「ヨーガラ」は「痩せているもの」、「ニーシェーター」は「青年達」、「ガリー」は「痩せ」、「ヤナカーギー」は「不美人」、「イバヤー」は「威張っているもの」、「シーサー」は「獅子」の意。

高橋 (2010) では、対称詞には女性的指標形式は見られず、男性的指標形式として「おまえ」と方言形対称代名詞「ヤー」と「ヤッター」、「イッター」があったことを指摘した。

表 3 を見ると、「おまえ」の使用は、「琉神マブヤー」では、高齢者であるオバアが年下の彼氏と叶に対して用いていただけであったが〔例：「おまえはもう、ヨーガリガリー（よわよわしく）して、もうヨーガラ（ひ弱）」、「フ

ラー（あほ）か、おまえは]],「外伝」では、ゆいが友人のユンタに2例〔例：「おまえが聞いたんだろー」、「おまえだいじょぶか?」〕とマングーチュが仲間のオニヒトデービルや敵対しているマブヤー、ペーちゃんに対して使っており〔例：「おまえはハブクラゲンをやっつけろ」〕、「マブヤー2」では、ヒメハブデービルがナミに対して1例使っている〔例：「おまえからヒジュルゾーン（冷酷空間）へ送ってやる」〕。つまり、男性的指標形式「おまえ」は、高齢女性か悪役女性、あるいは幼い印象の女性に使用が限られる。

一方、方言形対称代名詞「ヤー」と「ヤッター」は、「琉神マブヤー」では女性登場人物による使用は見られなかったが、「外伝」では、フリムンペーちゃんがマブヤーに対して2例〔例：「ヤー（おまえ）、人を信じるからダメだばーよ」、「ヤー、なに言ってるば?」〕、「マブヤー2」では、クレアがオバアとオバアの彼氏に対して1例〔例：「ヤッター（おまえたち）、ちゃんと答えれ」〕、美容師がお客の女性（具志堅さん）に対して1例〔例：「ヤー、マー（どこ）の具志堅だば?」〕を使っており、いずれの発話も文末表現は方言語形である「だば」や「ば」、「方言命令形」とともに用いられている。一見すると、若い女性登場人物の日常的な使用語形として、方言形対称詞が出現するようにみえるが、いずれも特殊な状況による使用である。まず、「外伝」でのフリムンペーちゃんのみによる使用は、日本語母語話者ではないことから、日本の社会言語学的ルールを逸脱したものの使用と見てとれる。また、「マブヤー2」での若い女性による方言形対称詞の使用は、マジムン軍団によって温かい心や人を思いやる心が奪われた状況におかれていたことによる。

つまり、女性による男性ジェンダーを指標する対称詞の使用は、高齢者、悪役、精神的に幼い人物、外国人に限られ、一般女性においては、普通 of 精神状態ではない状況に限定されており、女性の使用は好ましくないという規範を表出している。

このような男性ジェンダーを指標する「おまえ」や方言形対称詞とは対称的なのが対称代名詞「あなた」である。高橋（2010）では、主な登場人物間による対称詞のみを抽出したため、「あなた」の使用が見られなかったが、

表3を見ると、高齢のオバアと冷酷な悪役、ヒメハブデービルを除き、発話数の多い女性登場人物（クレア、ゆい、ナミ、マンガーチュ）は総じて「あなた」を使用している〔例：「あなた、飼い主？」（クレア）、「これがあなたのやりたいことなの？」（ゆい）、「あなた、ヒジュールゾーン探してるんでしょ？」（ナミ）〕。つまり、「あなた」は一般的な女性に使用が好まれている語形であり、女性ジェンダーを強調する指標として用いられている。

3.4 終助詞

終助詞については、高橋（2010）でジェンダー指標形式として用いられていることが明確であった終助詞と鈴木（1993）、水本（2010）を参考に、「ぞ・だぞ」「ぜ・だぜ」「だよな・だな」を男性的指標形式、「かしら」「ね（名詞・形容動詞語幹・副詞などに続くもの）」「よ・よね（名詞・形容動詞語幹・副詞などに続くもの）」「のよ」「わ・わね・わよ」を女性的指標形式として、その使用数を表4（次ページ）に示す。

まず、男性的指標形式とされる終助詞の使用については、「外伝」のゆいが3例〔例：「みんな行くぜ」、「容赦しないぜ」、「よーし、ユンタ行くぜ〕、「マブヤー2」のナミが1例〔例：「思ったよりたよりない感じだなあ、カナイクン」〕のみであった。ただし、ナミの使用例は、断定・主張の意味を表す「だな」ではなく、詠嘆の意味を表す「だなあ」なので、典型的な男性的指標形式とは意味が異なる。つまり、対称詞同様に、男性的指標形式の出現は精神的に幼い人物であるゆいの発話のみに限定されている。

次に女性的指標形式であるが、実はここにも形は同じでも女性ジェンダーを指標する用法とはいえないものが含まれている。結論から先に述べれば、女性ジェンダーを指標する終助詞を顕著に使用しているのは、「外伝」「マブヤー2」に登場するマンガーチュである。次に「琉神マブヤー」のクレアがあげられる。

各形式について詳しくみていくと、まず、「かしら」の使用はマンガーチュの2例のみである〔例：「どうやってその種を撒くのかしら」（外伝）、「ふん、今度もそう思うかしら」（マブヤー2）〕。「のよ」についても、マンガーチュ

表4 女性登場人物による終助詞

		男性的指標形式			女性的指標形式				
		ぞ だぞ	ぜ だぜ	だよな だな	かし ら	ね	よ よね	のよ	わ わね わよ
クレア (225発話)	琉神マブヤー (140発話)	0	0	0	0	2(1)	1(1)	3	0
	マブヤー2 (85発話)	0	0	0	0	0	0	0	0
オバア (198発話)	琉神マブヤー (80発話)	0	0	0	0	5(5)	0	1	1(1)
	マブヤー2 (117発話)	0	0	0	0	1(1)	2(2)	0	0
マンガーチュ (249発話)	琉神マブヤー (17発話)	0	0	0	0	1	0	0	1
	外伝 (190発話)	0	0	0	1	5	6	7	8
	マブヤー2 (42発話)	0	0	0	1	1	0	2	0
ゆい (774発話)	外伝	0	3	0	0	1(1)	4(4)	0	0
フリムンペー ちん(67発話)	外伝	0	0	0	0	1(1)	1(1)	0	0
ウーマクー (43発話)	外伝	0	0	0	0	1	2(2)	0	0
ナミ (134発話)	マブヤー2	0	0	1(1)	0	0	1(1)	0	0
ヒメハブデー ビル(88発話)	マブヤー2	0	0	0	0	0	1(1)	0	0
ガイド (12発話)	琉神マブヤー	0	0	0	0	0	1(1)	0	0
観光客 (5発話)	琉神マブヤー	0	0	0	0	0	1	0	0
客の女 (16発話)	マブヤー2	0	0	0	0	0	1(1)	0	0
ちあき (15発話)	マブヤー2	0	0	0	0	0	1(1)	0	0

(注) ()内の数字は、使用数のうち実際には男性および女性ジェンダーを指標する用法とはいえないもの。

は「外伝」と「マブヤー2」で9例使用している〔例：「ハブデービル、あんたいつも集中力が足りないのよ」(外伝)、「マブヤーは誰だって信用するのよ」(マブヤー2)〕。オバアに1例、クレアに3例ある「のよ」は「琉神マブヤー」におけるもので、このうちオバアの使用は、高橋(2010)で述べたように、標準語しか話せなくなった特殊な状況のもとでの使用である〔例：「ええ、あたくし、元気ですのよ」〕。「わ・わね・わよ」についても、語形が

出現するのは、オバアとマンガーチュの発話のみであるが〔例：「やがて結婚するわーよ」（オバア）、「じゃあ、このイバヤー（威張っているもの）を頼んだわよ」（マンガーチュ）、「ええ、わたくしマブヤーの弱点を見つけ出しましたわ」（マンガーチュ）〕、オバアの「わーよ」は方言的用法であり、女性ジェンダーを指標する用法ではない。

「ね」と「よ・よね」は、多くの女性登場人物の発話に出現するが、その多くが疑問の意味で使われる方言終助詞としての「ね」（大城・尚2007）と念押しの方言終助詞「よ」（内間・野原2006）として用いられている〔例：「あー、元気ねー？」（オバア）、「あんたのゆんたくーよ」（ゆい）〕。また、フリムンペーちゃんによる「ね」と「よ」の使用は、自称詞の場合と同様にステレオタイプの外国人の用法である〔例：「ボーイズアンドガールズ、最後までマジムンパナを聞いてくれたおれいにミーから素敵なおプレゼントねー」、「これを聞くだけで、欲しいものや願い事が全部叶ってしまうというドリームのような話よー」〕。よって、女性ジェンダーを意味する「ね」と「よ・よね」の使用は、マンガーチュの13例〔例：「ひとつ残らずなくなるのも時間の問題ね」、「どんな相手にも弱点はあるものよ」〕のほかは、「琉神マブヤー」のクレアの1例〔例：「吠えられるなんて、まだなついてないみたいねー」〕、ウーマクーと観光客、ヒメハブデービルの各1例〔例：「女たちの戦いね」（ウーマクー）、「いい言葉よねー」（観光客）、「さあ、カミンチュの女よ、マジムンとなったあかしを見せろ」（ヒメハブデービル）〕だけであるが、最後のヒメハブデービルの「よ」の使用は、呼びかけの用法であるため、女性ジェンダーを指標する用法とは言えない。

「外伝」と「マブヤー2」で女性ジェンダーを指標する終助詞を多用するマンガーチュは、「琉神マブヤー」では登場場面が少なかったことからどんな人物なのか明確ではなかったが、「外伝」では、悪役たちのアイドル的存在として描かれ、「マブヤー2」においても、同じく悪役のヒメハブデービルが非情で冷酷な女性として描かれている一方で、マジムン軍団のアイドル的役割を担っている。つまり、女性ジェンダーを指標する終助詞の多用は、男性たちのアイドル的役割の指標となっているのである。

このような女性ジェンダーを指標する終助詞使用の有無で役柄の性格づけが異なるのが、クレアである。クレアは、「琉神マブヤー」では女性的指標形式の終助詞を使用しているが、「マブヤー2」では全く使用していない。それは、「琉神マブヤー」のクレアは、主人公の叶のみならず脇役男性のあこがれの的として登場するが、「マブヤー2」でのクレアは、男性たちのあこがれの的というよりは、むしろニライの救出に忙しいカナイにかまってももらえないいらだちから県外へ就職することを検討する自律的な女性として描かれていることによるだろう。

因(2010)では、女性的指標形式が「若さ(=性的魅力)」と「上品さ・育ちのよさ(=正統性)」を表現する場合があると言うが、マブヤーシリーズにおける女性ジェンダーを指標する終助詞の使用は、上品さや若さの表出というよりは、男性たちの恋愛対象かどうかを示す標識としてのみ機能していると言える。

4. おわりに

以上、マブヤーシリーズ作品の女性登場人物によるジェンダー指標形式の使用が、何を意図しているのかを考察した。まとめると、女性による男性的指標形式の使用は、高齢女性、悪役女性、精神的に幼い女性、異国籍の女性(日本語を母語としない女性)に限定され、女性として何らかの有標性があることを示しており、一般的な日本人男性の恋愛対象にはならないことを指標している。一方、女性による女性的指標形式の使用は、役柄の好ましさを正統性と結び付けられているのではなく、男性登場人物に気に入られているかどうかの指標となっていた。この点は、中村(2007)が女性的指標形式は成人女性のアイデンティティーを表現するために利用される言語資源であると述べていることに相通ずるものである。また、方言形式については、熊谷(2010)が方言は地域的な差を表現する地域方言としての性格より、職業やジェンダーイメージと結びつけられる社会方言的性格が強いと述べているが、本稿においても、方言形式の指標性は男性的指標形式と同様の機能を持ち、特に一般女性登場人物の方言形使用は、正常ではない異端性を示す、マイナ

スイメージを想起させるものであった。

標準語圏のメディアで、方言のマイナスイメージが再生産されることはよくあることだが、郷土愛、地域アイデンティティを育むために生まれたご当地ヒーロー作品が、方言使用のマイナスイメージを再生産することに加担してしまっているのは悲しい事実である。ご当地作品であるからこそ、これまで標準語圏で作られた方言イメージの変容を図るべく、ぜひとも戦略的に方言形式を活かしてほしいと願ってやまない。

注

- (1) 高橋(2010)のp. 97に記載した表3の数値に誤りが見つかりましたので、この場を借りて訂正いたします。

クレア（呼ぶ人）→叶（呼ばれる人）
【誤】名（13）→【正】名（12）
クレア（呼ぶ人）→ケン（呼ばれる人）
【誤】名（4）→【正】名（1）
オバア（呼ぶ人）→クレア（呼ばれる人）
【誤】名+ちゃん（1）→【正】削除

- (2) 「マジムン」とは那覇方言で、「妖怪。化物。魔物。精。歳を経たもの、奇怪なものも妖怪に変化するという」（内間・野原2006:252）との語釈があるように、本作品中でも、マジムン軍団とは魔物軍団を意味する。

- (3) 「マブイグミ」とは那覇方言で、「マブイウティ(魂が身体から離れること。奇怪なものを見たり、転んで仰天したりなど、異常な状態に陥ったとき、魂が人体から抜け落ちるといわれている)をした魂をもとの体に戻すこと。年寄りに頼んで祈願してもらう」（内間・野原2006:255）ということだが、作品中のナレーションでも、マブイグミとは昔話のマブイ(魂)を体の中に入れるおまじないのことであるとの説明がある。

- (4) 「ガナシー」は、マブヤーと同じく、ニライカナイからやってきた第二の勇者であるが、第3作目の「琉神マブヤー2」では、カナイの兄、ニライが変身した姿がガナシーである。

- (5) 「フリムン」とは那覇方言で、「①気がふれた者、馬鹿、②不良、やくざ」を意味する（内間・野原2006:244）。

- (6) 「ヒジュールゾーン」とは、本作品では、冷酷空間を意味する。内間・野原(2006:229)によると、那覇方言には「ヒジュールアシ」（冷や汗）、「ヒジュールカジ」（冷たい風）、「ヒ

ジュルミジ」(冷たい水)などの「ヒジュール」を使った名詞語彙が数多くあることから、そこから派生した造語だと思われる。

(7) 第1作目の「琉神マブヤー」では、主人公「叶」は漢字表記であったが、第3作目の「琉神マブヤー2(ターチ)」では、「カナイ」とカタカナ表記に変更されているので、本稿の表記も原作に従う。

(8) 「外伝」での放送では、第1話と第2話の冒頭で、場面と主人公の紹介を兼ねて、次のようなナレーションが入る。「ここはチルダイ森。きれいに澄んだ心、マブイを持つ者だけが入ることのできる森。子どもの頃はみんなが入れた森です。この二人は毎日のようにここに来て遊んでいるユンタとゆい。2人はチルダイ森が大好きでした。大人になると忘れてしまうこの森へ二人は大きくなった今も大好きでやってくるのです」

このナレーションから見ると、ゆいは決して幼児や子どもではないのであるが、蟬が友だちだと言ったり、公園の幼児用の遊具で遊んだり、その言動は、マブヤーシリーズで登場する他の若い女性とは異なる。

(9) 呼び間違いの「ハブデビール」(3)を含む。

(10) カナイに対しての名前の呼び捨ては、カナイの姿のときに呼ばれたものを指すので、「カナイ」に限らず、「琉神マブヤー」(1)と「マブヤー」(1)と呼ばれたものも含み、琉神マブヤーの姿に対しての名前の呼び捨てとは別に表示している。

参考文献

宇佐美まゆみ(2007)「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) 2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機的統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15～18年度科学研究費補助金 基盤研究B(2)研究成果報告書 研究代表者 宇佐美まゆみ 課題番号 15320064 pp.17-36.

内間直仁・野原三義編(2006)『沖縄語辞典 那覇方言を中心に』研究社

大城朋子・尚真貴子編(2007)『日本語バイリンガルへのパスポートー沖縄で日本語教師をめざすあなたへ』沖縄国際大学日本語教育教材開発研究会

熊谷滋子(2010)「方言の歴史ー若い女性が東北方言を使いにくいわけ」中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言語学』pp.50-65 世界思想社

鈴木睦(1993)「女性語の本質—丁寧さ、発話行為の視点から—『日本語学5月臨時増刊号』

Vol. 12 No. 6 pp. 148-155 明治書院

高橋美奈子(2001)「沖縄県における女子大学生の人称表現」『ことば』22号 pp. 78-90 現

代日本語研究会

高橋美奈子(2009)「地域語からみた自称詞における性差再考」『ことば』30号 pp. 82-95 現

代日本語研究会

高橋美奈子(2010)「沖縄生まれの戦隊ヒーローの話—ことばにみる性差—人気テレビ番組

「琉神マブヤー」の文字化資料の分析より—」『ことば』31号 pp. 89-112 現

代日本語研究会

因京子(2007)「翻訳マンガにおける女性登場人物の言葉遣い—女性ジェンダー標示形式を

中心に—」『日本語とジェンダー』第7号 日本語ジェンダー学会

http://www.gender.jp/journal/no7/02_chinami.html

因京子(2010)「マンガ—ジェンダー表現の多様な意味」中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言

語学』pp. 73-88世界思想社

中村桃子(2007)『<性>と日本語—ことばがつくる女と男』日本放送出版協会

マブヤープロジェクト(2009)『琉神マブヤー』DVD

マブヤープロジェクト(2011)『琉神マブヤー2(タッチ)』DVD

水本光美(2010)「テレビドラマ—“ドラマ語”としての『女ことば』」中村桃子編『ジェ

ンダーで学ぶ言語学』pp. 89-106世界思想社

(たかはし みなこ・琉球大学)